



マリエント「ちきゅう」たんけんクラブ

はちのへ きんきゅうとくべつきかく
がんばろう八戸！ 緊急特別企画

はやし まさみち せんせい こうわ すいちゅう じつえん
「林 正道 先生 講話と水中ロボット実演」

へいせい ねん がつ かつどう ほうこく
平成23年4月のマリエント「ちきゅう」たんけんクラブ活動をご報告します。

- うみ ひょうちやくぶつ ほんもの すいちゅう せいさく こどもたち うみ たいせつ
海の漂着物やゴミから本物そっくりの水中ロボットを製作し、子どもたちに海の大切
さや海の生き物の魅力について理解を深める。
- ひがしにほんだいしんさい ひがし う へちのへ えがお とど
東日本大震災で被害を受けた八戸のみなさんに笑顔をお届け。

ふた しゆし がつ にち すい はやしまさみちせんせい ごこうい はちのへ きんきゅうとくべつきかく
・この二つの趣旨をもとに、4月6日(水)、林正道先生のご厚意により、「がんばろう八戸！緊急特別企画
『林正道先生講話と水中ロボット実演』」を開催しました。

- 〈日程〉
1. はやし まさみち せんせい こうわ 「みんな笑顔に」
 2. すいちゅう じつえん
水中ロボット実演
【 実演内容 】
【 実演中のお客様の様子 】



はやしせんせい こうわ
林先生講話「みんな笑顔に」

まず、3階ウミネコシアターで、林先生からご講話をいただきました。林先生は今回、東日本大震災に遭遇した子どもたちを元気づけるために、マリエントにお越しくださることになったのです。

かいようがく けんきゆうじょ しよちょう はやし まさみち せんせい
海洋薬研究所 所長 林 正道 先生



はやしせんせい みじか うみ せいぶつ した かん うみべ お
林先生は身近な海の生物に親しみを感じてもらうため、海辺に落ちて
ひょうちやくぶつ つか うみ かわ す せいぶつ すいちゆう つく
いる漂着物やゴミを使い、海や川に棲む生物の水中ロボットを作り、
にほんかくち ひろう
日本各地で披露しています。

はやしせんせい すうねんまえ びょうき うみ もぐ かつどう いしゃ きん
林先生は、数年前、病気のため海に潜っての活動を医者から禁じられ
ました。療養のため過ごしたおきなわみやこしま うみべ ひろ かみ
で覆った魚の模型を作ったことが、現在の活動のきっかけだという話を、
こどもも おとな かつ かつどう
子どもも、大人の方も、とても真剣な顔で聞いていました。

すいちゆう じつえん
2.水中ロボット実演

【 実演内容 】

水中ロボットをつくるきっかけをお話してくださった後は、林先生
がつく すいちゆう じつえん
が作った水中ロボットの実演をしました。

まずは席に座ったままロボットを観察してもらい、その後、水を張った
プールで泳がせました。子どもたちは、身を乗り出して、目の前で
泳いでいるロボットに見いていました。

子どもたちは触りたそうにそわそわ・・・。

シーラカンス稚魚のロボットの実演では、水中照明をセットした
水槽のなかで泳ぐシーラカンスのリアルさと迫力に、みなさん息を
のんで見つめていました。また、今話題のクニマスのペアのロボット
もあり、なんと産卵行動を再現して見せていただきました。



【 実演中のお客様の様子 】

プールを囲んで、水中ロボットを触らせていただきました。



本物そっくりの水中ロボットを、みなさんととても嬉しそうに触っていました。大人も子どももみんな笑顔！すぐ近くで見ながら、どんな作りをしているのか、子どもたちは興味しんしん。子どもたちからは「ザラザラしている！」「やわらかい！」などといった感想がたくさん聞かれました。



「また来よう」と言って下さった林先生と子どもたちが約束の握手



マスコミの方の取材に元気に答える子どもたち

今回、急遽決まった林先生の講話でしたが、たくさんの方が参加してくださいました。ありがとうございます。ありがとうございました。「みんな笑顔に」とのお気持ちで開催された林先生の講話は、会場にいる全員が笑顔になれる、素晴らしいものでした。講話が終わったあと、「また来てください！」と子どもたちに言われた林先生は、みなさんと笑顔で約束の握手を交わしていました。

遠いところをお越し下さった、海洋楽研究所所長の林正道先生に改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。



マリエント「ちきゅう」たんけんクラブ

へいせい ねんど ほつそくしき
平成23年度マリエント「ちきゅう」たんけんクラブ 発足式

へいせい ねん がつ かっごう ほうこく
平成23年5月のマリエント「ちきゅう」たんけんクラブ活動をご報告します。

- かぶしまじんじや さんばい ねんかん あんぜん きがん
蕪嶋神社に参拝し、1年間の安全を祈願する。
- さけの ちぎよ ほうりゅう しゅうせい いのち たいせつ かん
サケの稚魚を放流し、サケの習性や命の大切さを感じる。
- (どく) かいようけんきゅうかいはつきこう みなさま こうりゅう とお
(独)海洋研究開発機構(JAMSTEC)の皆様との交流を通し、「ちきゅう」や海の不思議について学ぶ。

・ この三つの趣旨をもとに、5月14日(土)、平成23年度5月企画マリエント「ちきゅう」たんけんクラブ発足式を開催いたしました。

〈日程〉

1. へいせい ねんど ほつそくしき
平成23年度発足式
2. かぶしまじんじや さんばい ねんかん あんぜん きがん
蕪嶋神社に参拝と1年間の安全祈願
3. さけの ちぎよ ほうりゅう
サケの稚魚放流
4. サイエンスカフェ
5. うみ ちきゅうのクイズ&実験
海と地球のクイズ&実験
6. こうさくきょうしつ しんかいせいぶつ
工作教室: 深海生物のフィギュアを作ろう



ほっそくしき 1、発足式

今回は今年度最初の企画です。

昨年度までのたんけんクラブ会員数は85名でした。今年はさらに会員が増え、111名で活動します。

いつもより早く集まった会員たちが、受付を済ませ、いよいよ発足式が始まりました。



八戸市水産科学館マリエント吉井仁美館長の挨拶の後、「ちきゅう」たんけんクラブ名誉隊長の坂本美洋様、(独)海洋研究開発機構(JAMSTEC)満澤巨彦課長、田村様、小俣様、吉澤様、八戸市社会教育課の船田課長よりご挨拶と励ましのお言葉を頂戴いたしました。



マリエント「ちきゅう」たんけんクラブ 隊長
八戸市水産科学館マリエント
館長 吉井 仁美



マリエント「ちきゅう」たんけんクラブ名誉隊長
捕球深部探査船「ちきゅう」研究成果活用促進
八戸市議会議員連盟会長 坂本 美洋 様



JAMSTEC 若から、満澤 巨彦 課長
田村 貴正 様
小俣 榛乃 様
吉澤 達し 様

その後、坂本美洋名誉隊長より、代表者の吉田龍平君に平成22年度マリエント「ちきゅう」たんけんクラブ活動記録が贈呈されました。

次に、ハガキに書こう海洋の夢コンテスト、準入選の於本拓也君、夏堀広陸君、木村太謙君の表彰式が行われました。

残念ながら、於本君は欠席で

したが、夏堀君、木村君にはJAMSTEC満澤課長より、賞状と記念品が贈られました。

そして、今年度のたんけんクラブの活動に助成をうけている日本財団より、祝電が届いていたので、マリエントスタッフから紹介をさせていただきました。



坂本名誉隊長より活動記録を贈呈



賞状と記念品を受け取る夏堀君、木村君

最後にマリエント「ちきゅう」たんけんクラブ副隊長の
高橋 晃 先生より挨拶をいただき、発足式は終了いたしました。



マリエント「ちきゅう」たんけんクラブ副隊長
八戸市水産科学館マリエントアドバイザー
青森県立百石高等学校教諭 高橋 晃 先生

2. 蕪嶋神社で参拝

安全祈願をするために、強い風の中、歩いて
蕪嶋神社へ移動しました。



蕪島につくとたくさんのウミネコたちが迎えてくれました。
産卵が終わったウミネコがたくさんいて、会員たちは卵を見つけては、近
づいて興味深そうに観察をしていました。



蕪嶋神社の中に入り、今年度の安全
祈願をしました。

今年度も安全を第一に、活動していけるよう、マリエントスタッフ一同、
頑張ってお参りたいと思います。

3. サケ稚魚放流



参拝後、蕪島海浜公園に移動をし、サケの稚魚を海に放流しました。

まず、副隊長の高橋晃先生から放流の仕方や、サケの習性などのお話を聞
きました。クラブ会員たちは初めて知ることが多かったのか、とても真剣に
お話を聞いていました。

そしていよいよ放流作業です。1人ずつサケを受け取り、準備完了です！
2回に分け、一斉にサケを放流しました。「大きくなって帰ってきてね！」、
「行ってらっしゃい！」などいろいろな掛け声と
ともに、放流しているクラブ会員がたくさんいました。
大きくなって帰ってくるのをクラブ会員一同、楽しみに待っています。



サケの稚魚を受け取るクラブ会員



みんなで一斉に放流！
「元気でねー！」

4. サイエンスカフェ



「ちきゅう」について講話してくださった
(右) 小俣様、(左) 吉澤様

放流終了後、マリエントへ戻り、サンドイッチを食べながら、サイエンスカフェを行いました。スクリーンを使って JAMSTEC の小俣様、吉澤様が「ちきゅう」の船内を案内してくださいました。真剣に聞きながらメモをとっているクラブ会員もいました。JAMSTEC の方から問題がでると、クラブ会員は元気よく手を挙げ、難しい問題だったにも関わらず鋭い答えを返すなど、JAMSTEC の方もビックリしていました。さすがは「ちきゅう」たんけんクラブ会員です！

それが終わると、JAMSTEC の方が書いてくださった色紙と、「ちきゅう」の科学者も使っているボールペンやパッチをプレゼントしていただき、会員たちはとても嬉しそうでした。



5. 海と地球のクイズ&実験



質問に答えるクラブ会員

満澤課長とお暗のウミネシアターに移動をし、海と地球に関するクイズを行いました。JAMSTEC の方が用意してくださった内容や問題にクラブ会員たちは、楽しみながら海と地球について勉強をしていました。

JAMSTEC の田村様から地球のクイズ！

それが終わると、今度は乾燥させたウミホタルを漬して、光らせるという発光実験を行いました。1人ずつ入れ物にウミホタルを入れ、全員が準備できるまで待ちます。待っている間初めてみるウミホタルにクラブ会員たちは興味津々でした。全員が準備出来たところで、ウミネコシアターを暗くし、つまようじで漬します。

すると、ウミホタルが光り、シアター内に歓声が上がりました。



容器にウミホタルを入れます

6. 工作教室



作り方を真剣に聞く会員



JAMSTECの方と一緒に作りました



上手に作れました！



まだ固まらないかな・・・



手伝ってもらいながら、
型に詰めていきます

実験が終わると、5階に戻り、深海生物のフィギュアを作りました。

まず、フィギュアの色と深海生物の型を決め、JAMSTECの方に教えてもらいながら、型にフィギュアの元をはめていきます。

水に入れ固めるとき、クラブ会員たちは今か今かと、ずっと見つめているのが印象的でした。出来上がったフィギュアは各自記念に持ち帰ることができ、クラブ会員たちは、とても喜んでいました。

これで、深海生物の名前を一つでも覚えられたかと思えます。

作り終わった会員はレポートを書き、提出して今回の発足式は終了となりました。

平成23年度の発足式は、JAMSTECの皆様のご協力により、普段は体験できない特別で楽しい企画がたくさんあり、会員たちや御家族の皆様にも楽しんでいただけたと思います。

平成23年度も、マリエント「ちきゅう」たんけんクラブは、「挨拶をしましょう」「みんなと仲良くしましょう」「感謝の気持ちを忘れずにしましょう」の3つの約束を守り、体験を通して活動していきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

また、今回ご多忙にも関わらず、マリエントまでお越しいただき、楽しい企画を実施して下さったJAMSTECの満澤課長、田村様、小俣様、吉澤様にあらためて深く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。



マリエント「ちきゅう」たんけんクラブ

へいせい ねんど がつきかく
平成23年度6月企画

しょうわくせいたんさき きかん とくべつてんじ
『小惑星探査機「はやぶさ」帰還カプセル特別展示』

へいせい ねん がつ かっどう ほうこく
平成23年6月のマリエント「ちきゅう」たんけんクラブ活動をご報告します。

- 小惑星探査機「はやぶさ」の展示を通し、宇宙科学への関心と感動を与える。
- 海洋研究開発機構(JAMSTEC)の地球深部探査船「ちきゅう」の展示と観覧することにより、“宇宙と地球”という最先端の技術や研究成果に間近で触れてもらう。

・この2つの趣旨のもとに、6月22日(水)～6月26日(日)、平成23年度6月特別企画『小惑星探査機「はやぶさ」帰還カプセル特別展示』を開催しました。

- 〈日程〉
1. 搬入と設置
 2. オープニングセレモニー
 3. 一般公開



1、搬入と設置



慎重にカプセルを運びます

6月21日の午前中「はやぶさ」がマリエントに到着しました。日本通運の方によりカプセルは館内に運ばれ、無事設置する事ができました。



マリエントで展示をしたのは、帰還カプセルカットモデル（模型）、パラシュート（実物）、背面ヒートシールド（実物）、前面ヒートシールド（模型）、インスツルメントモジュール（実物）、搭載電子機器部（実物）の6つを展示しました。他にははやぶさ8分の1スケール模型やはやぶさ関連のパネルの展示、3階のウミネコシアターでは「はやぶさ」関連映像の上映もしました。



左写真の右側が、帰還カプセル・カットモデルになります。カプセルの構造を分かりやすく見ることができる実物大模型です。

左側が、パラシュートになります。

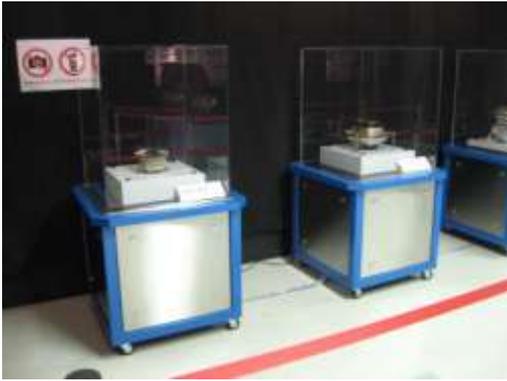
強くても軽いポリエステル製の十字形状で作られています。

右の写真の右側が、全面ヒートシールドになります。大気圏再突入時の高温から、カプセル内部を守る役目をはたします。

左側が、背面ヒートシールドになります。機体を背面側からの加熱から守ると同時に、パラシュートを引き出す役目もあります。



す。



右側が、インスツルメントモジュールになります。
サンプルが入るコンテナ部と、搭載電子機器部がおさめられています。

左側が、搭載電子機器部になります。
はやぶさからの指示を受け、再突入カプセルとしての役目をはたすための心臓部です。

この6つのカプセルは湿度や温度の変化に弱いということで、展示ケース内には、乾燥剤を入れました。
その他にも1時間ごとに湿度と温度の変化を記録しました。

2オープニングセレモニー

司会の米沢章子様



6月22日9時より、オープニングセレモニーを開催いたしました。
司会は青森放送アナウンサーの米沢章子様。
セレモニーには、八戸市教育委員会教育課様、八戸商工会議所様、八戸観光コンベンション協会様、青森県立三沢航空科学館様 八戸児童科学館様、他にも、鮫町町内会連合会様、八戸市立鮫中学校様、かもめ幼稚園の皆様にご出席してくださり、テープカットを行いました。



オープニングセレモニーが始まりました



いよいよテープカットです

オープニングセレモニーにご出席くださいました皆様、司会の米沢様、報道陣の皆様、お忙しいなか誠にありがとうございました。

3. 一般公開

オープニング終了後、『小惑星探査機「はやぶさ」特別展』がオープンしました。平日にも関わらず、朝から見に来てくださるお客様もいらっしゃいました。最終日は日曜日ということもあり、マリエントの駐車場が満車になるほどのお客様がいらっしゃいました。シアターでは、はやぶさの映像を上映し、毎回満員になるほどの盛況ぶりでした。映像を見たお客様からは、「感動しました！」という声をたくさんいただきました。3階の受付では、はやぶさに関するグッズも販売し、シアターを見終わって感動された方々がグッズを記念に買っていく姿が多く見られました

また、八戸児童科学館のご協力により、最終日にはマリエントから児童科学館までの往復シャトルバスも運行されました。他にも八戸南高校生、八戸市社会教育課の皆様にも館内の案内や駐車場の誘導などをしていただきました。ありがとうございました。



展示場内には人がたくさん



8分の1模型の「はやぶさ」を記念撮影です



南高生が元気に「ありがとうございました！」



社会教育課の皆様もお手伝いをして下さいました

4. まとめ

7年間60億キロという長い宇宙の旅から奇跡的に帰還した「はやぶさ」をたくさんの方が見て、感動して下さったことを、とても嬉しく思います。本当にありがとうございました。

また、今回の展示に協力下さいました皆様、宇宙航空研究開発機構（JAXA）の皆様、八戸教育委員会の皆様、八戸児童科学館の皆様、報道陣の皆様に心から御礼申し上げます。ありがとうございました。

<http://www.nippon-foundation.or.jp/index.html>



マリエント「ちきゅう」たんけんクラブ

へいせい ねんど がつきかく し はまえんがんかんさつかい
平成23年度7月企画むつ市ちぢり浜沿岸観察会

へいせい ねん がつ のマリエント「ちきゅう」たんけんクラブ活動をご報告します。

- 海洋環境と生物への関心を高め、次世代の海洋学に関わる人材の育成に役立つ。
- 分布生物の変化とそれに影響を与える海洋環境との関係を理解する。
- 世代を超えた交流をはかり、コミュニケーション能力の基礎を養う。

磯の水族館から地球を探ろう」をテーマに、7月2日(土)～7月3日(日)の2日間、独立行政
法人 海洋研究開発機構むつ研究所のご協力のもと、平成23年度7月企画「むつ市 ちぢり浜
沿岸観察会」に参加しました。

<日程>

1日目

1. むつ市下北自然の家へ出発
2. サンプル処理、検討会
3. 公開講座

2日目

4. 事前説明会
5. 海浜調査
6. サンプル処理、検討会
7. 終了、マリエントへ出発



1. むつへ出発

朝7時過ぎ、元気よく「おはようございます！」とあいさつをしながら、参加するたんけんクラブ会員が集まってきました。今回は、八戸南高等学校の生徒の皆様も参加しました。7時30分、マリエント館長の吉井仁美をはじめ、スタッフや、保護者の皆様に見送られながら「いってきます！」と大きく窓の外に手を振り、むつ市下北自然の家に向けて出発しました。最初に、引率のマリエントスタッフの渡邊徹と山本綾香から皆様に自己紹介をしました。その後、参加者全員に、自己紹介をしてもらい、名前や趣味・特技などを発表してもらいました。クラブ会員たちは、高校生と一緒にということもあり、少し緊張していましたが、自己紹介が終わるころには、緊張も解けバスの中はにぎやかでした。



2. サンプル処理、検討会



予定よりも少し早くむつ市下北自然の家に到着し、まずはその前で集合写真を撮り、これから2日間お世話になる、独立行政法人海洋研究開発機構むつ研究所（JAMSTEC）の皆様、むつ市下北自然の家の皆様にあいさつをしました。各自部屋に荷物を置いた後、屋食をとりました。その後、2階へ移動をし、サンプル処理に取り組みました。ちぢり浜で採れた生物を目の前にみんな興味津々です。近くにいるJAMSTECの方々に、生物の名前や種類を熱心に質問していました。



JAMSTEC研究員の田中義幸様からは、海藻と海草の違いの説明があり、海藻（コンブ、ワカメ等）の根は、岩に付着するためのものであり、海草（スガモ、アマモ等）の根は、栄養を吸収するためのものであること等を教えて頂きました。その後、それぞれ海藻・海草を手に取り、（緑色、紅色、褐色）の3色どれに当てはまるかの色分けに挑戦しました。八戸南高校生のお兄さん、

お姉さんたちも、少しの色の違いを見分けるのに苦戦していました。たんけんクラブ会員のみんなは、高校生のお姉さん達と相談しながら真剣に取り組んでいました。

その後、海藻の標本作成に取り組みました。男子高校生グループは、JAMSTECの渡邊所長のご指導を受けながら取り組んでいました。また、女子高校生グループをのぞいてみると綺麗に海藻を並べていました。それぞれどんな標本ができるのか楽しみですね。



3. 公開講座



サンプル処理、検討会が終わると、施設内での諸注意などの説明を受け、お風呂と夕食を済ませ、夜から開催される公開講座に備えました。そして夜の8時、渡邊所長の実験から公開講座が始まりました。参加は自由だったのですが、八戸南高校生をはじめ、たんけんクラブ会員全員が参加しました。



難しい話などもありましたが、眠い目をこすりながら、みんな一所懸命聞いていました。また、むつ市海と森ふれあい体験館館長 五十嵐健志様の講座では、実際に生き物を持ってきて見せてくださいました。みんな眠気もどこへやら、真剣に見入っていました。

公開講座が終わると、各自部屋に戻り、消灯。気持ちが高なったのでしょうか？なかなか眠りに付けないクラブ会員もいたようです。



4. 事前説明会

2日目、今日は待ちに待った海浜調査で実際にちどり浜に行く日です。朝食を済ませ、まずは事前説明会が始まりました。説明会が終わると外に移動し、自然の家の前でライフジャケットを着て出発前の記念撮影をしました。期待に胸をふくらませ、いよいよ、ちどり浜に向け出発です。



5. 海浜調査



ちぢり浜に到着すると、さっそくグループごとに作業に取り掛かりました。足元は海藻で滑りやすくなっており、岩場に大きくあいたタイドプールがあり、少し危ないところもありましたが、みんな夢中になってカニやヒトデ、ウミウシなど、水の中や岩場に隠れている生物を探していました。自分で採った海藻や生物を近くにいるJAMSTECの方々に見てもらい、名前などを熱心に聞いていました。



お昼の時間が近づき、バケツいっぱい採取した海藻や生き物を持ち、ちぢり浜を後にしました。自然の家に着き、お風呂に入りサッパリしたあと、お腹いっぱい昼食をいただきました。

6. サンプル処理、検討会

午前中ちぢり浜で採取してきた海藻、生物を使ってサンプル処理がはじまりました。バケツから中身を取り出すと、こんなにたくさん生物が出てきました。自分達で採取したというのもあって、1日目よりもさらに作業に気合いが入っていました。また、他のグループがどんな生物を採ってきたのか覗いてみたり、自分の採取したものと見比べてみたりと、とても楽しそうでした。サンプル処理が終わると、アンケートを提出し、全員にウミホタルを採取するための道具をJAMSTECからいただきました。



さいごのまよりの時間では、独立行政法人海洋研究開発機構むつ研究所 所長 渡邊修一様、研究員 田中義幸様をはじめ、今回お世話になった、むつ市海と森ふれあい体験館 館長 五十嵐健志様、北海道 蘭越町 役場総務課まちづくり推進係 学芸員 山崎友資様より公表を頂戴しました。

7. 終了、マリエントへ出発

荷物をもとめ、帰る準備をし、最後に2日間お世話になったJAMSTECの皆様、むつ市下北自然の家の皆様に心から感謝し、御礼の挨拶をしました。

その後、バスに乗り、八戸に向け出発しました。帰りのバスでは、疲れてぐっすり眠ってしまった八戸南 高校生、まだまだ元気いっぱいのたんけんクラブ会員と様々でした。みなさん、本当にお疲れ様でした。

今回は、たくさんの方々のご指導・ご協力のもと、大変貴重な体験・学習をさせて頂きました。高校生のみなさんにとっては、将来、海に関わる仕事を目指している人はもちろん、進路を考えるうえでも大きな一歩になったと思います。また、マリエント「ちきゅう」たんけんクラブ会員のみなさんには、今回の体験・学習を通して、海洋環境や海洋生物について学ぶ事が出来た、貴重な機会になったのではないかと思います。

最後になりましたが、独立行政法人海洋研究開発機構むつ研究所 所長 渡邊修一様と田中義幸様をはじめとする研究員の皆様、むつ市海と森ふれあい体験館 館長 五十嵐健志様、北海道 蘭越町 役場総務課まちづくり推進係 学芸員 山崎友資様、そして、むつ市下北自然の家の皆様には大変お世話になりました。あらためて深く御礼申し上げます。

誠にありがとうございました。



マリエント「ちきゅう」たんけんクラブ

へいせい ねんど がつきかく みず あんぜん だいけんきゅう 平成23年度7月企画 水と安全の大研究

へいせい ねん がつ のマリエント「ちきゅう」たんけんクラブ活動をご報告します。

ひがしにほんだいしんさい ほんせい すいなんじ こ いしき たか なか じっまい ちやくいえい みぢか もの
○東日本大震災の発生で水難事故への意識が高まる中、実際に「着衣泳」や「身近な物を
つか う ほうほう たいけん すいなんじ こ ぼうし たいしょほうほう あたま からだ
使って浮く方法」を体験することにより、水難事故の防止や対処方法について、“頭と体”
で学ぶ。

きょうふいしき にがていしき たい ゆうき も
○恐怖意識や苦手意識に対して、“勇気を持ってチャレンジする心”を身につける。

この2つの趣旨をもとに、7月30日(土)、マリエント「ちきゅう」たんけんクラブ 平成23年度7月
企画「水と安全の大研究」を開催しました。

<日程>

1. 南部町名川B&G海洋センター(以下B&G海洋センター)へ集合
2. 水と安全のプール講習開始
①水着泳 ②着衣泳 ③身近な物で浮いてみよう ④ライフジャケットの使い方
3. プラム狩り体験
4. 終了、マリエントへ向け出発



1. B&G海洋センターへ集合

午前10時、マリエント集合・出発のクラブ会員と現地直接集合のクラブ会員が、全員、B&G海洋センターへ揃いました。

まず始めに、今回、講師をしてくださる B&G海洋センター アクアインストラクターの上田隆昭様と大島亨様から、水難事故に関わるお話と、講習における注意事項等の説明を頂きました。

その後、二人一組でバディ(お互いの安全を確認したり助け合うための相棒)を組み、結束力と士気を高めるための“声かけ”を行いました。

「バディ、用意！」のかけ声でお互いの手を組み、「バディ、オー！！」のかけ声で組んだ手を上にかざします。

最初は恥ずかしくて大きな声を出せなかったクラブ会員も、繰り返すうちに次第に声が大きくなります。

さあ、今日は元気良く頑張るぞ！！



バディ、用意！



バディ、オー！！

2. 水と安全のプール講習開始

水着に着替えて、いよいよプール講習の開始です。最初はウォーミングアップも兼ねて水着で泳いでみた後、服を着て、同じように泳いだり、浮いたりしてみました(着衣泳)。

水着に比べ服を着た状態では、水を吸い込んだ服の重さと抵抗で、とても泳ぎにくいことを実感。しかし、逆に、水着の時よりも体は沈みにくいことも解りました。

その実感を踏まえて、講師から「服を着て水に落ちたり入ってしまった時は、慌てず冷静に、体力をなるべく使わぬよう無理に泳がず、浮いて顔を出し、とにかく呼吸を確保することが重要」との説明を頂きました。



まずは水着でウォーミングアップ！



さあ、服を着て水に入るぞ！！



服が重い！動きにくい！
おまけに感触が気持ち悪い！



講師の“浮く”お手本。怖がって体を「くの字」
にすると沈むが、まっすぐにすると浮く。



最初は怖がって上手に浮くことが出来なかったクラブ会員もいましたが、勇気を振り絞ってチャレンジし、上手に浮くことが出来たクラブ会員が沢山いました。その一所懸命さと、短時間での大きな成長に、スタッフはとても感心させられました。



仲間が手伝ってくれた！！ ありがとう！！



みんな上手にできたかな？

着衣泳の後は、身近な物を使って浮いてみる練習を行いました。

使ったのはペットボトル、リュックサック、クーラーボックス、ビニール袋等、海や山へ出掛ける時によく持参する物ばかりです。

実際使ってみると、これら身近な物でも実は結構浮力(浮こうとする力)を持っており、ビニール袋については、膨らませることにより、立派な“浮き”になることを実感しました。



講師からは、「水に落ちたり入ってしまった人に対しては、身近にある浮きそうな物をとにかく投げ入れてあげることが重要」との説明を頂きました。



ビニール袋はとても良い“浮き”に早変わり。



すごい！ 上手！！ 上手！！

最後は、ライフジャケットの使い方に関する講習です。

ライフジャケットを着用し、さっそく水中に入ってみると、さすがはライフジャケット。体をどんな向きにしても沈みません。

また、保温効果もあるため、体が冷えにくく、温かいことにも驚きました。



ライフジャケットをしっかりと着用することが、水難事故の大きな防止に繋がるということ、クラブ会員は実感していた様子でした。



講師の熱血指導に、嬉しそうなクラブ会員。



先程と違って簡単に体が浮きます。

ライフジャケット講習が終了し、講師をしてくださった上田隆昭様と大島亨様に心から感謝を込めて、御礼の挨拶を行いました。

そしてその後、着替えをしてレポート作成をしました。レポート作成が終わったら、次はいよいよプラム狩りです。

3. プラム狩り体験

水と安全のプール講習とレポート作成が終わり、南部町名川でさくらんぼやプラム等を栽培されている農家西村忠志様が経営している農園西村忠志農園に移動し、待ちに待ったプラム狩り体験の開始です。

農園に着くと、真っ赤で美味しそうなプラムがどっさり。プール講習を一所懸命頑張ったクラブ会員は、おなかがペコペコ状態。

さあ、自然とその恵みを堪能しながら、プラムを沢山食べるぞ！！



真まっ赤かに熟じゆくしたプラムがどっさり！！



とっおても美味あしいよ！！



どれにしようかなあ～



にしむらただしのううんん とくべつだいサービス！！
カシスも採とらせていただきました。



ノギリクワガタやカエルの子こ供どもをはっけん発見！！これも自然体しぜんたいけん験だいごみの醍醐味です。



4. 終了、マリエントへ向け出発

プラム狩りが終了の時間となり、お世話になった西村忠志農園の西村忠志様に皆で元気に御礼の挨拶を行い、現地直接集合のクラブ会員は解散、マリエントから来たクラブ会員はバスに乗り込み、マリエントへ向け出発しました。

帰りのバスは、マリエントスタッフの「クラブ会員は疲れきって、ぐっすりだろうね」という予想を裏切り、とてもにぎやか。

その元気でエネルギーに、またまた感心させられたスタッフでした。



今回の企画は「プール講習」ということで、恐怖意識や苦手意識を持って望んだクラブ会員も多かったと思いますが、“勇気を出してチャレンジするクラブ会員の姿”を見て、スタッフは非常に心を打たれました。クラブ会員を始めとする参加者の皆様、本当にお疲れ様でした。

今回の企画が、水難事故の防止や、水の安全に対する関心を高めるための一つの機会となれば、嬉しく思います。

最後になりましたが、今回、南部町名川B&G海洋センター アクアインストラクターの上田隆昭様とお島亨様、そして西村忠志農園 西村忠志様に大変お世話になりました。

この場を借りて、あらためて深く御礼を申し上げます。

誠にありがとうございました。

八戸市水産科学館マリエント

渡邊 徹

上原 沙也香



日本財団
The Nippon Foundation

助成事業

(<http://www.nippon-foundation.or.jp/index.html>)



へいせい ねんど がつきかく だいけんきゅう
平成23年度8月企画 「イカの大研究」

へいせい ねん がつ マリエント「ちきゅう」たんけんクラブ活動をご報告します。

- 八戸を代表する水産物であるイカについて、研究者からお話を伺い、新たな知識を得て、理解を深める。
- 各地のイカ踊り披露とエール交換により、イカの街どうしの交流を深める。
- イカを焼いて食べることにより、地元食材であるイカに対する関心を高め、イカ食育の普及に資する。

これらの趣旨のもと、「八戸イカの日」8月10日（水）、マリエント「ちきゅう」たんけんクラブ平成23年度8月企画「イカの大研究」を開催しました。

- 1.【講演】イカってどんな生き物？（講師 桜井 泰憲 先生）
- 2.【イカの日記念イベント 式典】
 - 八戸イカ研究会から活動報告書の提出
 - 八戸イカ学び宣言
 - イカ踊りとエール交換
- 3.【イカ焼き体験】八戸のスルメイカでイカ焼き体験



1. 開会式をして、講演を聞きました

今回は、昨年に引き続き、8月10日「はちのへイカの日」の記念イベントとして活動を行いました。3階ウミネコシアター入口で受付を済ませ、シアターに入って開会式です。八戸市水産科学館マリエント吉井仁美館長の挨拶の後、北海道大学大学院水産科学研究院教授の桜井泰憲先生から、講演をしていただきました。



満員のウミネコシアター。



桜井 泰憲 先生。

桜井先生は、イカの研究者として大変有名な方で、函館イカ研究会の世話人を務められるなど、イカの日にお話を拝聴するには、まさに願ってもない方です。桜井先生のお話は、巨大なダイオウイカのことからはじまり、イカの種類やからだの構造、深海に棲むイカのお話など、興味を引く話題を織り交ぜながら、わかりやすく解説してくださいました。なかでも、「イカは貝の仲間」というお話には、クラブ会員たちは驚いた様子でした。



大きなダイオウイカの説明。



桜井先生のお話に集中しています。



イカはバックも自由自在。

桜井先生は、たんけんクラブのために、いろいろな映像や写真を用意してくださいました。イカだけでなく、海藻の生えた岩そっくりに一瞬で擬態するタコの映像には、思わず声があがっていました。



このなかにタコがいます。どこかな？
(岩のまんなかあたりなんですけど・・・)



このなかにもタコがいます。わかるかな？
(まんなかの三角形らしきところです)



カツオドリに追われて空を飛ぶアカイカの群れ。



真剣な表情で講演を聴講する参加者のみなさん。

また、カツオドリに追われたアカイカが空中を飛んで逃げる写真は、「これほど鮮明にイカの飛行シーンを撮影したのは初めて」と先生がおっしゃっているとおり、空を飛ぶイカの群れがはっきりと写っていました。イカが空を飛ぶことを初めて知ったクラブ会員たちも多く（実はスタッフも）、不思議なイカの生態に、驚くことばかり、そしてあっという間の30分間の講演でした。

このような貴重なお話をしてくださった桜井先生に、心から感謝をこめて御礼の挨拶をして、次のイベント会場である5階展望ホールへと移動しました。

2. イカの日記念の式典に参加しました

会場を5階展望ホールに移し、「はちのへイカの日」記念の式典に参加しました。ご来賓の方々、たんけんクラブ会員と保護者の方々、そして一般のお客様で、展望ホールはいっぱいです。



5階展望ホールもたくさんの方々でいっぱい。

【 八戸イカ研究会 活動報告書の提出 】



左が工藤様、右が河村様です。

「八戸市農林水産部長 工藤良弘様」へ、「イカの街はちのへまちづくり研究会会員、八戸みなと漁業共同組合専務理事 河村喜久雄様」より、八戸イカ研究会の活動報告書が手渡されました。八戸のイカをもっと知ってもらい、食べてもらうために、もつといろいろな活動に力を入れていきます、という河村様のお話が印象に残りました。

【 八戸イカ学び宣言 】



スタッフが大きすぎました。すみません・・・

「イカの街八戸」を代表して、たんけんクラブ会員のなかから、小学校6年生の5人が、「八戸イカ学び宣言」をしました。並んで一人ずつ、宣言文を読み上げていきます。「八戸はイカの漁獲量日本一！ 僕たちは、八戸のイカを誇りに思っています！ イカを獲ってきてくれる漁師のみなさん、そして僕たちの家庭においしく提供してくれる、たくさんのお客様のみなさん、僕たちはそんなみなさんと、おいしいイかに感謝をして、イカを一所懸命勉強し、たくさん食べることを誓います！」

最後の部分は、5人で読み上げましたが、息もぴったり、大きな声ではっきりと、立派な宣言ができました。午前中にお話をしてくださった、桜井先生のような、素晴らしい「イカ博士」になれるように、たんけんクラブのみんなとがんばろう！

【イカ踊りとエール交換】

八戸とならんでイカのまちとして知られる函館から、北海道大学大学院水産科学研究院の皆様がお見えになり、「はちのへイカの日」を盛り上げるため、「函館イカ踊り」を披露してくださいました。

そして八戸からは、「八戸高校応援団」が、伝統のイカ踊りで参加してくださいました。



水産科学研究院のみなさん。最初はちょっと緊張していたようですが・・・

曲が流れ、踊りが始まると・・・

軽快なステップを披露してくださいました。

最初は、北海道大学大学院水産科学研究院の皆様の「函館イカ踊り」です。桜井先生がいらっしゃる北海道大学大学院水産科学研究院には、世界各国からの留学生の方々も多く、国際的な顔ぶれです。テンポのよい「函館イカ踊り」の曲に合わせて、軽いステップで踊ります。笑顔で、楽しそうに踊っていたのが印象的でした。踊り終わると、盛大な拍手が起きました。

続いて、八戸高校応援団の番です。着物に袴という伝統的な応援団スタイルを身にまとった応援団員の皆様は、イカの形のボードを持ち、大きな声で歌いながら、太鼓に合わせて踊りました。



「オーッス！」という掛け声は迫力十分。

大太鼓の音からも力強さが伝わります。

軽快な雰囲気、北海道大学の皆様とはまた違った、力強く、伝統を感じさせる踊りでした。

そして、「はちのへイカの日」を応援するエールを送ってくださいました。気合のこもったエールに、参加者の方々も、少し緊張した面持ちで、じっと聞き入っていました。



かもめ幼稚園の子どもたち。

そしてイカ踊りの「トリ」をつとめるのは、マリエントの地元、地区の幼稚園「学校法人小沢学園 かもめ幼稚園」の「イカ踊りチーム」です。「いかのまち八戸」という曲によって、かわいいイカ君、イカちゃんたちが踊ります。参加者の方々も、手拍子で、かわいらしいイカ踊りチームを盛り上げます。



かわいいイカ君、イカちゃんたち。

衣装は凝ったつくりになっています。

熱演に、大きな拍手が起きました。

かめ幼稚園の踊りが終わると、三者三様の「イカ踊り」に、あらためて大きな拍手が送られ、大いに盛り上がった式典は終了しました。

3. イカ焼き体験をしました

引き続き、5階外の展望デッキにおいて、「イカ焼き体験」に移りました。この日は、気温が30度を超える暑い日になりましたが、参加者の皆様は、さらに熱い炭火をもとせず、イカ焼きに挑戦しました。

そろそろ焼けたかな？



みんなで食べるとおいしいね。

イカ焼き体験は楽しかった？

いっぱい食べた？

たんけんクラブ会員も、家族の皆様と一しょに、イカを焼いて食べました。炭火を使って自分でイカを初めて焼いたというクラブ会員も多く、食べることもさることながら、イカを焼く体験を楽しんだようでした。

4. クラブレポートを作成しました

「はちのへイカの日」の記念イベントが終了してから、たんけんクラブ会員はクラブレポートを作成しました。提出されたレポートを見てみると、イカ焼き体験について書いているものが多いのは予想したとおりだったのですが、それ以上に、桜井先生のお話の内容について、「初めて知りました。」「すごかった。」などという記述



イスの上で集中してレポートを書くクラブ会員たち。

が多く、たんけんクラブ会員が、新しい知識を貪欲に吸収しようとしていたと感じました。なかには、「たんけんクラブに入ってよかったです。」「またぜひ参加したい。」という積極的な記述もあり、うれし
いと同時に、企画をこれ以上に充実させなければ、と、改めて思わせられました。



今回、一番印象深かったのは何だろう。



ちょっと気をとられました。



みんなどんなことを書いてるのかな？

最後になりましたが、今回、大変お忙しい中、たんけんクラブのためにおいでいただいた北海道大学
大学院 水産科学研究院 教授 の 桜井泰憲先生と水産科学研究院の皆様、青森県立八戸高校応援団の
皆様、学校法人小沢学園 かもめ幼稚園の皆様、青森県三八地方県民局 地域農林水産部 八戸水産
事務所の皆様には大変お世話になりました。あらためて深く御礼申し上げます。
誠にありがとうございました。



マリエント「ちきゅう」たんけんクラブ

平成23年度 8月特別企画

JAMSTEC「深海潜水調査船支援母船 よこすか」、
「有人潜水調査船 しんかい6500」 特別公開

平成23年8月のマリエント「ちきゅう」たんけんクラブ活動を報告します。

○(独)海洋研究開発機構(JAMSTEC)の「深海潜水調査船支援母船 よこすか」と「有人潜水調査船 しんかい6500」の研究者や船員の皆様が講師となり、船内を見学し、より一層海洋の科学研究への興味を
ひろげる。

○東日本大震災の震源付近の海底を調査していた世界最高水準の大深度有人潜水調査船「しんかい6500」の最新技術に触れる。

・この二つの趣旨をもとに、8月15日(月)、平成23年度8月特別企画「(独)海洋研究開発機構(JAMSTEC)『深海潜水調査船支援母船 よこすか』、『有人潜水調査船 しんかい6500』特別公開」を開催しました。

- 〈日程〉
1. 岸壁到着、花束贈呈
 2. 船内見学
 3. 記念撮影
 4. レポート作成



平朝彦理事を囲んで

はなたばぞうてい
1、花束贈呈

午後1時、マリエントに集合し、バスに乗り、「深海潜水調査船支援母船 よこすか」が停泊している岸壁に出発です。岸壁に到着すると、今回お世話になる(独)海洋研究開発機構(JAMSTEC)の方々がお出迎えをして下さいました。到着後、クラブ員を代表して姉帯紘武さんと姉帯萌夏さんより、花束の贈呈を行いました。その後、佐々木朋奏さんと早川葵さんの二人から、平成23年度「ちきゅう」たんけんクラブ活動記録を贈呈しました。続いて、二子雄太さんの方から、八戸の地サイダーである三島サイダーを1ケースプレゼントしました。



岸壁に到着し、班ごとに整列しました。



お出迎えをしてくださった JAMSTEC の皆様です。



姉帯萌夏さんと姉帯紘武さんから花束の贈呈です。



佐々木朋奏さんと早川葵さんから、活動記録の贈呈です。



クラブ員一力持ちの二子雄太さんからサイダーをプレゼントしました。



JAMSTEC の満澤課長より、今日の説明を受けました。

せんないけんがく
2、船内見学

いよいよ「よこすか」の船内に入ります。4つの班にわけ、行動しました。

〔食堂～会議室・操舵室・総合指令室〕



やなぎやまこうかんちょう ひだり しよくどう せつめい する クラブ員
柳谷航管長(左)に食堂の説明を受けるクラブ員



しんけん ほんし きこ クラブ員
真剣にお話を聞くクラブ員



たくさん並んでいる画面に釘付けです！！



ボタンがたくさんあり、興味津々のクラブ員たち



ひくざつ ちず せつめい する クラブ員
複雑な地図の説明を受けるクラブ員



ここで海に潜った「しんかい6500」と通信をとります。

〔煙突デッキ・後部操舵室・深海曳航調査システム「ディーブ・トウ」(YKDT)操縦室〕



これは煙突です！下に大きなエンジンがあります。



なにかあった時のために、予備のプロペラを2つのせています。



船の上から見る海はとてもきれいでした。



むつ研究所の渡邊所長(右)から説明を受け、保護者の方も興味津々です。



ディープトウの操舵室です。海の底を映像で見せていただきました。

煙突デッキでは、船から逃げる時に使う救命艇などを見せていただきました。乗組員全員(約60名)が乗る事ができる救命艇で、クラブ員たちは驚いていました。

後部操舵室からは、「しんかい6500」を引き上げるための、大きなクレーンやディーブ・トウ(YKDT)を引き上げるウィンチなども見学しました。

ディープトウは「しんかい6500」とは違い人が乗らないため、危険なところまで調査できる潜水船です。今回の東日本大震災の震源地付近を事前に調査し、活躍したことなどを、説明してくださいました。また、ディープトウが撮った実際の映像もを見せていただきました。

〔格納庫・しんかい6500・ディーフトウ本体〕

格納庫に移動をすると、「しんかい6500」が出迎えてくれました。とても楽しみにしていたクラブ員は目をまん丸にして、食い入るように見ていました。また、近くにいる乗務員に質問をする姿も多くみられました。乗務員のみなさんは、クラブ員たちがわかりやすいように、どんな質問にも丁寧に答えてくださいました。「しんかい6500」の中にまでは入れませんが、とても良い経験が出来たと思います。



これが「しんかい6500」です。
カッコいい!



「しんかい6500」の側面の構造もみせていただきました。



乗務員の方にたくさん質問をするクラブ員。



後ろ姿もカッコいいです!



底はどのようになっているのかな~?



ディーフトウ本体です。人が乗らない分、危険なところまで潜って調査することができます。

【第1研究室・潜航ビデオ鑑賞】

ビデオ鑑賞では、「しんかい6500」の作動点検から海底調査の様子を紹介していただきました。

クラブ員たちはビデオに釘付けで、とても真剣に見ていました。

実際に「しんかい6500」から撮影した深海、海底の様子や、生物を採取する方法などとても貴重な映像を見せていただきました。



櫻井司令(右)より、映像の説明を受けました。



「しんかい6500」が撮った映像を真剣に見るクラブ員。

【全班格納庫へ集合・ манипуレーターパフォーマンス・集合写真】



マニピュレーターの説明を受けます。

一通り船内を見学した後は、「しんかい6500」の格納庫に全班が集合し、実際に海底で岩石などを採取するために使われる、マニピュレーターのパフォーマンスを見せていただきました。

初めに説明を受け、いよいよマニピュレーターを動かします。クラブ員は今か今かと動く瞬間を待っていました。



動く瞬間を待ちます！

その後、空き缶をマニピュレーターに持たせ、握るとどうなるのか実際にやってみました。

すると、空き缶はプチプチという音とともに、一瞬で潰れてしまいました。その瞬間、格納庫内は歓声に包まれ、クラブ員たちもとても嬉しそうでした。

空き缶を取ると、潰れていただけでなく、缶が裂けていました。マニピュレーターが握力だけでなく、鋭いということに、クラブ員たちは驚いていました。



マニピュレーターに空き缶を持たせます。



握ると、一瞬で潰れました！

最後に、「しんかい6500」の前で、全員で記念撮影をしました。



3、「よこすか」前で記念撮影

見学を終えて船から降りた後、「よこすか」前で記念撮影をしました。その後、クラブ員たちは整列し、今回お世話になった JAMSTEC の方々に、感謝の気持ちを込めて「ありがとうございました」のあいさつをしました。クラブ員はとても良い経験が出来たと思います。「楽しかったですかー？」と聞くと、大きな声で「はい！」と答えていました。最後に船長と全員が握手をし、バスに乗り込みました。



今回お世話になった JAMSTEC の皆様と「よこすか」前で記念撮影



最後に握手をしてもらいました。



握手をして嬉しそうなクラブ員



「今日はありがとうございました！」

4、レポート作成

マリエントに到着し、5階の展望ホールでレポートの作成をしました。

5階ではJAMSTECの平朝彦理事がクラブ員を待っていました。初めに平理事より挨拶を頂戴し、サインをいただくクラブ員もいました。



平理事のお話を真剣に聞くクラブ員



平理事より、挨拶を頂戴しました。

JAMSTECの満澤課長や田村様も来てくださり、クラブ員のレポート作成を手伝ってくださいました。

クラブ員は今回の企画で、初めて知る事がたくさんあったのか、レポートをすらすらと書き上げていました。

このような企画を通してクラブ員は海洋の科学や研究に深く興味をもったようでした。

最後になりましたが、今回このような素晴らしい企画を用意して下さった JAMSTEC の皆様に心から御礼申し上げます。ありがとうございました。

(八戸市水産科学館マリエント 上原 沙也香)



<http://www.nippon-foundation.or.jp/index.html>

マリエント「ちきゅう」たんけんクラブ



あomorikenritsumi sawakoukougakugan はちのへしじどうかかくかん
青森県立三沢航空科学館・八戸市児童科学館

はちのへしすいさんかがくかん さんかんごうどうきかく
八戸市水産科学館マリエント 三館合同企画

なんきょくかんそくせん さいひょうかん とくべつこうかい
南極観測船 砕氷艦「しらせ」特別公開

平成23年8月のマリエント「ちきゅう」たんけんクラブ活動を報告します。

○国内唯一の砕氷艦である、海上自衛隊「南極観測船 砕氷艦 しらせ」の最新技術に間近で触れ、学ぶ。

○「しらせ」の乗組員の皆様から直接、船の説明を頂くとともに、現場でのエピソードや苦労話等を聞くなから、海洋や地球分野への憧れや興味・感心を広げる。

この二つの趣旨をもとに、8月28日(日)、青森県立三沢航空科学館、八戸市児童科学館、八戸市水産科学館マリエントによる三館合同企画、「南極観測船 砕氷艦『しらせ』特別公開」を開催しました。

- 〈日程〉
1. 岸壁到着、花束贈呈
 2. 船内見学
 3. マリエントへ出発、レポート作成



「しらせ」の乗組員の皆様と

1. 岸壁到着、花束贈呈

午前9時、マリエントに集合したクラブ会員は、バスに乗り、「南極観測船 砕氷艦 しらせ」が停泊している八戸港八太郎岸壁に出発です。出発して間もなく、バスの窓からは、今回見学する「しらせ」の姿が見えてきました。船はページュにオレンジの鮮やかな色で、遠くからでもその船体の大きさを実感することができました。まるで“海に浮かぶデパート”のような「しらせ」に、クラブ会員の期待が膨らみます。

岸壁に到着すると、班ごとに整列し、いよいよ「しらせ」に乗船です。最初に、「しらせ」内の食堂に移動すると、「しらせ」の艦長をはじめ、沢山の乗組員の皆様がクラブ会員を歓迎してくださいました。更に、光栄にもたんけんクラブ名誉隊長の坂本美洋様も、ご多忙の中、クラブ会員のために駆けつけてくださっていました。

食堂に集合すると、まずはお礼の気持ちを込め、クラブ会員を代表して夏堀歩陸君と夏堀広陸君から「しらせ」の艦長に花束の贈呈を行いました。続いて、福嶋元太君と市瀬尚祝君の二人から平成22年度「ちきゅう」たんけんクラブ活動記録を、そして最後に、二澤平竜弥君と大沼竜大君から、八戸の地サイダーである三島サイダーを贈呈致しました。

6名のクラブ会員は、急な大役にも関わらず、緊張しながらも、みんなしっかりと役割を果たしてくれました。



岸壁に到着し、班ごとに整列しました。



いよいよ「しらせ」に乗船です。



夏堀歩陸君と夏堀広陸君から艦長に花束の贈呈です。



福嶋元太君と市瀬尚祝君は活動記録を贈呈してくれました。



二澤平竜弥君と大沼竜大君からは、三島サイダーを贈呈。



坂本名譽隊長と艦長に、みんなで元気に挨拶。



贈呈と挨拶の後は、いよいよ楽しみにしていた「しらせ」の勉強の時間です。

艦長自ら、映像を用いて「しらせ」の構造やしくみ、今までの歴史や活躍などを、解りやすく説明してくださいました。

南極の海は、約1.5メートル以上の分厚い氷が広がっており、その中を航行するために、一旦、船を200～300メートル後進させ、最大馬力で前進し、氷に乗り上げ、船の重さを利用して氷を砕くそうです。

その迫力に、クラブ会員は船内見学の気持ちが高鳴ります。

スクリーンでは、南極で実際に撮影した写真を見せていただきました。なかにはオーロラや大きな氷山、南極に生息するペンギンやアザラシなどの生物の写真もあり、クラブ会員たちはスクリーンに釘づけです。また、南極は冬になると太陽が沈まないことを知り、クラブ会員は驚いている様子でした。



オーロラの写真。幻想的です。



真剣な表情のクラブ会員



南極氷山の写真

せんないけんがく
2. 船内見学

いよいよ船内見学です。5つの班に分かれ、行動しました。



熱心に説明していただきました。



あんなに高いところに見張所が！！



真剣にメモをとるクラブ会員



副長席に座って記念撮影。



気分はすっかり艦長です！！



南極の氷。数万年前の空気が入っている。



南極の石も触らせてもらいました！！



南極で使用している乗り物。「しらせ2号」



記念にスタンプを押しました。



実物大ペンギンの前で仲良く記念撮影。



船内に理髪室があり、クラブ会員もびっくり!!



廊下には賞状や楯が沢山飾られています。



乗組員の部屋も見せてもらいました。



積極的に質問するクラブ会員

船内に理髪室もあることに、クラブ会員はととても驚いていた様子。ただし、理容師さんはいないので、自分達で髪を切り合っているそうです。なお、乗組員の中にもカリスマ理容師がおり、そのような乗組員には予約が集中するという面白い裏話も聞かせてくれました。

甲板に出ると、南極の氷や石が展示してありました。実際に触ることができ、なかには氷にほったをつけて「つめたい!」と楽しんでいるクラブ会員や、南極の石の表面はどうして凸凹しているのか等、積極的に質問しているクラブ会員、そしてびっしりとメモをとりながら熱心に聞いているクラブ会員もいました。

毎度のことですが、クラブ会員のそのような一所懸命な姿を見て、スタッフは改めて感心し、クラブ会員を誇りに感じるのです。

3. マリエントへ出発、レポート作成



船内の見学を終えた後は、今回お世話になった海上自衛隊の皆様と「しらせ」前で記念撮影を行いました。

最後はみんなで大きな声で「さようなら」と手を振ってお別れをし、マリエントへ向け、バスで出発です。

バスの中では、窓から「しらせ」の姿が見えなくなるまで別れを惜しむクラブ会員や、友達や家族の方と「楽しかったね。」と話しているクラブ会員等、様々でした。

さあ、最後はマリエントに戻りレポートの作成です。



マリエントに到着し、5階の展望ホールでレポートの作成をしました。クラブ会員たちは、今回見てきたものや教えて頂いたことを思い出しながら、文字だけでなく絵でも書いてみたりと、集中して黙々と自分なりのレポートを作成していました。

なかには表面だけでは書き足りず、裏面にまで書いてくれたクラブ会員もいました。

それぞれ出来上がったレポートを見るのが楽しみです。



今回の企画を通して、クラブ会員たちは、今まで見学してきた船とはまた違う、特殊な構造やしくみを持った船を実際に見学し、そして、憧れの乗組員の皆様から説明を頂いたり、現場のエピソードや苦労話等を聞くことで、より一層、海洋や地球への感心が強まったのではないのでしょうか？

最後になりますが、今回、南極観測船 砕氷艦「しらせ」に乗船する貴重な機会を下さったマリエント「ちきゅう」たんけんクラブの坂本美洋名艦隊長、そして見学に際して大変お世話になりました海上自衛隊関係者皆様から心から御礼を申し上げます。ありがとうございました。

（八戸市水産科学館マリエント 山本 綾香）



マリエント「ちきゅう」たんけんクラブ

へいせい ねんど がつきかく
平成23年度 9月企画

はちのへかいようしょうねんだん

八戸海洋少年団・マリエント「ちきゅう」たんけんクラブ

ごうどうきかく うみ あんぜん だいけんきゅう
合同企画「海の安全の大研究」

へいせい ねん がつ かつどう ほうこく
平成23年9月のマリエント「ちきゅう」たんけんクラブ活動を報告します。

○海の労働安全の専門家、高崎経済大学教授の久宗周二様より、海での安全とその対策について学び、海での事故対策を身につける。

○地曳網漁について学び、サンマを自分で焼いて食することで、漁業に対する関心を高め、季節の恵みに感謝する。

○八戸海洋少年団の皆様との交流を通して、連携を深めるとともに、協調性を養う。

・この三つの趣旨をもとに、9月23日（金）、平成23年度9月企画「海の安全の大研究」を開催しました。

- 〈日程〉
1. 講義「海での命はどう守る」とワークショップ
 2. 地曳網のお話
 3. 秋の味覚 サンマ焼き体験



こうし ひさむねせんせい げんき ねが
講師の久宗先生に元気よく「お願いします！！」

1、海うみの安全あんぜんのお話はなし

午前9時、受付開始からあっという間に125名の参加者が集まり、展望ホールが人でいっぱいになりました。まず、今回の講師の高崎経済大学教授の久宗周二様より、あいさつを頂戴しました。次に、参加者の皆さんで元気よく、久宗先生に、「よろしくお願ひします。」とあいさつをしました。



たくさんの方が参加してくださいました。



高崎経済大学教授久宗周二様。



いよいよ講義が始まりました。

まず初めに、ライフジャケットの必要性についてお話をいただきました。

海での事故は陸よりも多く、一番は海中転落が原因だそうで、それを聞いたクラブ会員はとても驚いているようでした。

今年8月、静岡県の天竜川で起こった転落事故もライフジャケットを着用していないために、多くの命が奪われました。ライフジャケットをつけていた場合、生存率が倍近くも違ってくるそうです。

会場にいた皆さんが改めて、ライフジャケットの大切さを感じているようでした。

また、最近ではライフジャケットを着用しない漁師の方が多いというところで、その危険性について解りやすく絵を見せながら、実際にどこが危ないのか教えて下さいました。久宗先生に「どこが危ないかわかるかな？」と聞かれたクラブ会員や海洋少年団の団員は、元気よく手を挙げ、詳しく答えていました。



元気よく手を挙げ、先生にアピールです！



「ここが危険だと思ひます！」

しっかり言えました。

次に、船の中の危険な場所を事故がおこらないように対策を取った後の写真を見ていただき、クラブ会員と海洋少年団の団員にどの対策が一番重要かを決めていただきました。全て重要だったのですが、一番重要と思ったのが、「ライフジャケットを着用すること」でした。クラブ会員たちは、久宗先生の話をしっかり聞いていて、どの写真が一番大切かしっかり解ったようでした。初めて知ったことがたくさんあったようで、とても勉強になりました。



どれが一番重要かな～？



「ライフジャケットをつける」の写真が赤い印で見えなくなりました。



たんけんクラブ代表の大島有翔さんが認定書を受け取ります



海洋少年団の澤口丞太郎さんも代表して認定書を受け取りました。

最後に、久宗先生から、今回講義を受けたたんけんクラブと海洋少年団の代表者の方に、認定書が贈られました。たんけんクラブからは大島有翔さん、海洋少年団からは澤口丞太郎さんが代表して認定書を受け取りました。

2. 地曳網のお話

次に、八戸市南浜漁業協同組合の深川修一様より地曳網のお話をいただきました。

晴れた場合、白浜海水浴場に行き、実際に地曳網体験をする予定でしたが、前日の台風の影響により、急遽中止になってしまいました。とても楽しみにしていたクラブ会員ですが、代わりに地曳網についてたくさんしつもんをしていました。「地曳網は何人くらいで曳けるのですか？」と質問すると、「大人だと10人、子どもだけだと40人いれば曳けるよ。」と優しく教えていただきました。他にも網の長さは1、2キロメートルもあるということや、地曳網で捕れる魚はヒラメやヒラツメガニ、イナダ、時々カツオやマグロも捕れると聞いて、クラブ会員はびっくりしていました。

地曳網体験は残念ながら出来ませんでしたが、クラブ会員たちは地曳網についていろいろ知ることができました。



深川様より、地曳網のお話を聞きます。



たくさん質問しました！

3. サンマ焼き・カニ釣り体験

昼食の時間になり、今回サンマ焼き体験に挑戦しました。初めて炭火でサンマ焼きを体験するクラブ会員もいて、お母さんやお父さんの後ろから、興味深そうに覗くクラブ会員や、楽しそうに親子でサンマを焼く光景が印象的でした。サンマ焼きをしている隣では、南浜漁業協同組合婦人部の方が二人、クラブ会員のために、ヒラツメガニを使ったカニ汁を作ってくださいました。とても大人気で子どもから大人まで何度もおかわりする人が続出・・・。

カニ汁に入っているヒラツメガニの足を観察しながら食べているクラブ会員が多く見られました。



親子でサンマ焼きに挑戦です！





さすが！お母さんが大活躍です。



とってもおいしくいただきました！

反対側のデッキでは、ヒラツメガニのカニ釣り体験を行いました。エサのイカの切り身を紐にくくりつけ、カニを釣ります。釣れた子からは「捕れたー！！」という大きな声も聞こえ、とても楽しそうでした。少し大きな水槽には、ヒラメもいて、直接触ったクラブ会員からは、「ザラザラする！」や「ぬるぬるするー」など少しビクビクしながら、触った感想を教えてくださいました。



ヒラメに恐る恐る触ってみました。



4. レポート作成

昼食を食べ終わったクラブ会員から、レポートを書き始めました。久宗先生から教わったこと、サンマやヒラツメガニについてなど、レポート用紙いっぱい書いていました。



カニ汁を作ってくくださった
婦人部の二人です。

「これから海に出るときはライフジャケットを必ず着ます。」などライフジャケットの大切さを感じているクラブ会員がほとんどでした。今日聞いたことをしっかりと胸の中に入れ、海で安全に楽しく遊んで欲しいですね。



食事の後はレポートを書く時間です。



実際にライフジャケットを着けてみました。

最後になりましたが、今回お世話になった高崎経済学部教授の久宗周二様、青森県三八地域県民局農林水産部 八戸水産事務所の浦坪敏明様、南浜漁業協同組合の深川修一様、そしてカニ汁を作ってくださった、南浜漁業協同組合婦人部の皆様、ご多忙にも関わらず、本当にありがとうございました。心から御礼申し上げます。

(八戸市水産科学館マリエント 上原 沙也香)



<http://www.nippon-foundation.or.jp/index.html>



マリエント「ちきゅう」たんけんクラブ

へいせい ねんど がつきかく
平成23年度10月企画 「自然エネルギーの大研究」

へいせい ねん がつ 平成23年10月のマリエント「ちきゅう」たんけんクラブ活動を報告します。

げんしりょくはつでんじょじ こ ほんせい
○原子力発電所事故の発生により、現在、特に注目を集めている「自然エネルギー」について、自然エネルギー
はし じどうしゃ けんがく しぜん うご
で走る自動車の見学や、自然エネルギーで動くおもちゃの実験工作を通し、自然エネルギーを身近に体験し、理解
きょうみ ふか
と興味を深めるとともに、将来、自然エネルギーを利用していくことの大切さを学ぶ。

いじょう しゆし
以上の趣旨をもとに、10月15日(土)、平成23年度10月企画「自然エネルギーの大研究」を開催
しました。

- 〈日程〉
1. 講話 「自然エネルギーの大研究」
講師：NPO グリーンシティ 理事 ひやま かつゆき さま
 2. 小型電気自動車(実物)の見学学習
講師：NPO グリーンシティ はたけやま あきよし さま
 3. 実験工作 「蒸気船のおもちゃ “ポンポン船”を作ろう！！」



じぶん つく
自分で作った“ポンポン船”を片手に、記念撮影！！

1、^{しぜん}“自然エネルギー”^{べんきょう}を勉強しました

受付を終え、午前10時、いよいよ自然エネルギーの大研究の始まりです。

今回、自然エネルギーの講師をして下さったのは、NPO グリーンシティ 理事の日山 克之 先生です。日山先生は風力発電を中心とした自然エネルギーの利活用の研究の他、自閉症やダウン症支援分野でもご活躍されている先生です。



日山先生からは風力発電や太陽光発電を始め、普段、使い終わって捨てている油を“燃料”として有効利用する“バイオディーゼル燃料”等のお話を頂きました。石油や石炭等のいわゆる“化石燃料”は、将来、必ず無くなってしまいう燃料であり、また、原子力エネルギーの代わりとしても、今後、こういった自然エネルギーを利用していくことが大切です。



なお、太陽光発電のお話では、青森県は国内でも最も太陽光発電に適した気候でありながら、太陽光発電を使っている割合がとても低いということ・・・。

2、^{こがたでんきじどうしゃ}の“小型電気自動車”^のに乗ってみました！！

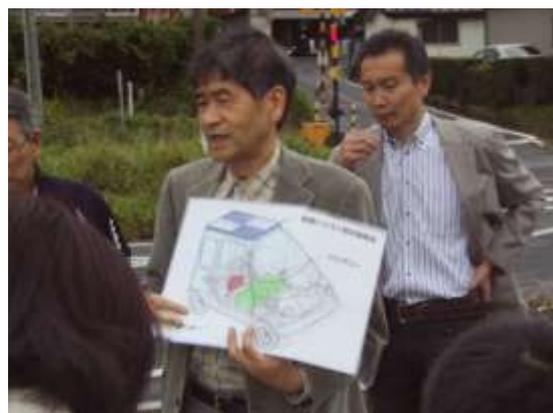
次に、天井にソーラーパネルを装着し、太陽光発電で走る“小型電気自動車”の実物を見学しました。講師をして下さったのは、NPO グリーンシティの畠山 明良 先生です。畠山先生は、環境に関する出前授業等にご尽力されている先生です。

マリエントの駐車場に移動し、小型電気自動車の実物を見ながら、畠山先生がご説明を下さいました。電気自動車は太陽光で発電した電気を充電して走るため、ガソリン等の燃料が必要ありません。

我等がたんけんクラブの副隊長、高橋晃先生が運転をしてみました。普通のガソリンエンジンと違ってモーターで走る車なので、とても静かです。そして、気になる最高速度は、なんと、時速60キロも出るそうです。



これがこがた小型電気自動車。一人乗りで、天井にソーラーパネルが付いています。



これが小型電気自動車。一人乗りで、天井にソーラーパネルが付いています。

のご乗り心地はどうですか？本当はほん転とうしてみたい・・・。

3、**“ポンポン船”**を作りました！！

次は、石油や石炭等、将来、無くなってしまふ化石燃料を使わずに、自然エネルギーを利用して動く“ポンポン船”という船を、全員で作ってみました。

“ポンポン船”とは、水の入ったアルミ管（ボイラー）を温めることによりボイラーの中の水が沸騰し、体積が大きくなつた水が勢いよくボイラーから出ることによって進む、いわゆる“蒸気船”のことです。この“ポンポン船”は、映画「崖の上のポニョ」にも登場しているとのこと。

最初は「作るのが難しそう・・・」、「本当に進むのかなあ？」と少し戸惑っていたクラブ会員でしたが、日山先生と畠山先生をはじめ、お父さんやお母さんに沢山相談し、時には手伝ってもらつたりして、一所懸命作っていました。



これが“ポンポン船”です！



お父さんと一緒に挑戦！



日山先生にアドバイスを受けるクラブ会員



上手に出来るかな？



作業をしながら日山先生に質問をしています。



今度は船体に穴を開けていきます。

そそしていよいよ完成です。出来上がったポンポン船を水に浮かべると、最初、全然動かなかったポンポン船が、時間が経つにつれ少しずつ震え出し、そしてゆっくりと進み始めました。進んだ瞬間、クラブ会員と保護者の方から大きな歓声が！！そして、「もう一つ、今度は全部自分の力で作ってみたい」と、2つ目のポンポン船を作り始めるクラブ会員が続出。また、余った材料を持ち帰って、家で作ってお風呂で遊びたいというクラブ会員もいました。



真剣な表情で作業をしています。



動くかな～？



自分で作ったポンポン船が動き出しました！



どうすれば早く進むかな・・・。



きょうだい せん
兄妹でポンポン船とにらめっこです。



ぼく うご
僕のは動くかな？



きょうべんきょう こと か
今日勉強した事をレポートに書きます。



ひやませんせい はたけやませんせい
日山先生、畠山先生、ありがとうございました。

レポート作成の時間となり、クラブ会員はまだまだ作りたい気持ちを抑え、レポートの作成を行いました。

レポート作成が終わると、最後に、今回お世話になった日山先生と畠山先生に御礼の挨拶を行い、頑張って作ったポンポン船を持ち、全員で記念撮影をしました。

今回、保護者の方が一緒に参加出来なかったクラブ会員も、お迎えが来ると真っ先にポンポン船を見せて、説明をしていました。

最後になりましたが、今回、講師をして下さった NPO グリーンシティの日山克之様と畠山明良様、そしてたんけんクラブ副隊長の高橋晃様、ご多忙にも関わらず本当にありがとうございました。心より御礼申し上げます。

はちのへしすいざんかがくかん
(八戸市水産科学館マリエント わたなべ とおる うえはら さやか
渡邊 徹・上原 沙也香)



<http://www.nippon-foundation.or.jp/index.html>



～ 号外 ～ “はちのへ「ちきゅう」情報館” 開館4周年記念式典

マリエント3階展示室の“はちのへ「ちきゅう」情報館”が12月で開館から4周年を迎えたことに伴い、12月3日（土）、独立行政法人海洋研究開発機構様及び海上保安協会八戸支部様のご協力のもと、八戸海上保安部様と共催で『“はちのへ「ちきゅう」情報館”開館4周年記念式典』を開催させていただきましたので、その様子をお知らせ致します。

1. 記念式典

9時30分、会場のウミネコシアターには、関係者も含めると約120名もの大勢の参加者にお集り頂き、立ち見も出る中で盛大に記念式典が始まりました。

まず始めに、八戸市水産科学館マリエント館長 吉井仁美 より主催者挨拶として、“はちのへ「ちきゅう」情報館”をマリエントへ設置して頂き、沢山の人に支えられながら4周年を迎えることができた感謝の意を述べた後、ご多忙の中ご出席くださった八戸市長 小林真様、八戸市議会議員 議長 秋山恭寛様、海上保安庁 八戸海上保安部長 野口修様、独立行政法人海洋研究開発機構 理事 堀田平様より、ご祝辞を頂きました。



八戸市長 小林真様



八戸市議会議員 議長 秋山恭寛様



海上保安庁 八戸海上保安部長 野口修様



独立行政法人海洋研究開発機構 理事 堀田平様

また、記念品贈呈として、海上保安協会八戸支部 支部長 熊谷拓治 様より、海難防止を願ってかめめ幼稚園の園児たちにかわいいライフジャケットが贈られました。



海上保安協会八戸支部より
ライフジャケットの贈呈。



沢山の参加者で会場は満席となりました。
ありがとうございました。

2. 記念講話

記念品の贈呈の後には、記念講話として3名の方から貴重なお話を頂きました。

<講話①> おばあちゃんの紙芝居 “つなみ” (講師 : 田畑ヨシ 様)

田畑様は、昭和8年、8才の時に昭和三陸地震を経験し、大津波が押し寄せる中、祖父の教えを守り、いち早く山の上に避難して助かりました。以来、言い伝えによる教訓の重要性を知り、30年以上にわたり、紙芝居を通して津波の恐ろしさや対処の方法を伝え続けています。

田畑様の実体験によるお話と、「最も怖いことは、津波の恐ろしさを忘れてしまうこと。だから決して忘れてはいけない」というメッセージは、東日本大震災を経験した私たちにとって、強く心に響くものがありました。

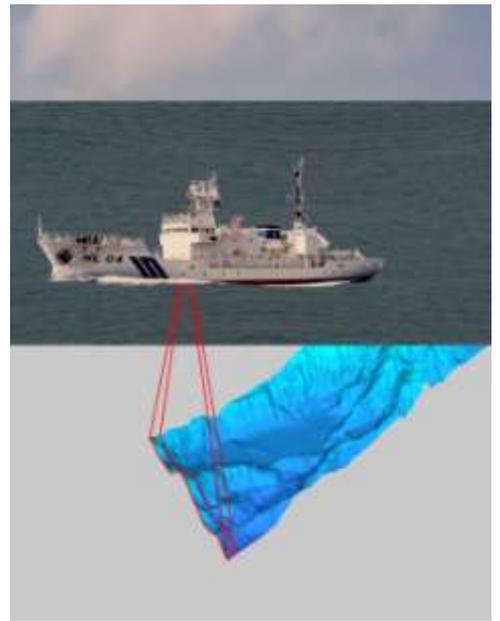


“最も怖いことは、津波の恐ろしさを忘れてしまうこと・・・”

<講話②> 海上保安庁の仕事 ~海図や海のお話~

(講師 : 八戸海上保安部 管理課長 佐藤秀彦 様)

佐藤様からは、海上保安庁の仕事についてお話を頂きました。
 海上保安庁は海での“警察”や“消防”の役割を担っているほか、海図の作成も行っています。日本で一番最初に海図が作られたのは岩手県釜石港周辺で、当時、釜石は製鉄が盛んで、鉄を日本各地に船で輸送したり、各地から原料を船で受け入れたりと、船の出入りが多かったため、それらの船が安全に航行できるよう、海図が作成されたのが始まりとのことでした。



海図を作るための海底地形を測る技術
 “マルチビーム測深”
 (出典 : 海上保安庁)



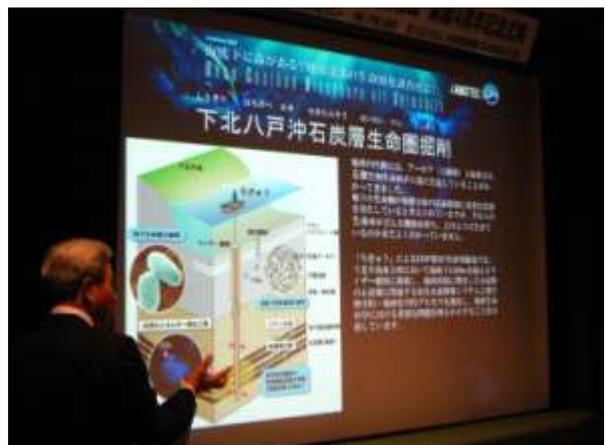
<講話③> 「しんかい6500」他による東日本大震災緊急調査と「ちきゅう」の今後

(講師 : 独立行政法人海洋研究開発機構 海洋工学センター 運航管理部 部長 田代省三 様)

田代様は、以前、有人潜水調査船「しんかい2000」及び「しんかい6500」のパイロットを務められ、マリエントでは、『はちのへ「ちきゅう」情報館』が設置される前から、大変お世話になっている方です。田代様からは、東日本大震災の調査と地球深部探査船「ちきゅう」に係わるお話を頂きました。

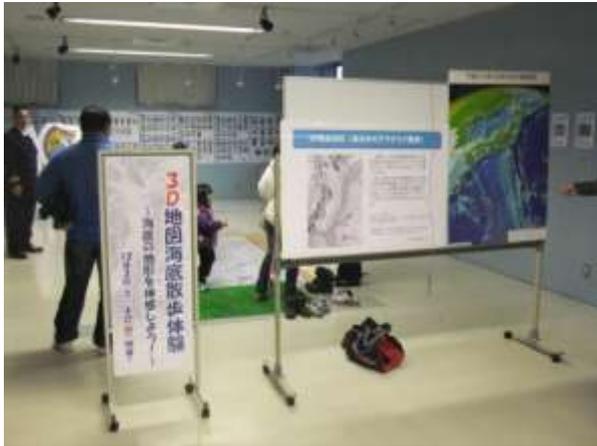
震災調査のお話では、今回の地震によってできた海底の大きな亀裂や、その亀裂にバクテリアが繁殖してできた“バクテリアマット”など、大変興味深い映像を見せて頂きました。

「ちきゅう」の話題では、『「ちきゅう」の長さは、たこやき7,000個分』という田代様の説明に、会場は大爆笑。また、震災で延期となっていた「ちきゅう」による八戸沖の海底掘削調査が、来年の春から夏にかけて実施されるという、嬉しい報告もありました。



3. 4周年記念 特別企画

はちのへ「ちきゅう」情報館 開館4周年を記念して、12月3日（土）と4日（日）の2日間、マリエントにて八戸海上保安部の方々による「3D地図 海底散歩体験」と、独立行政法人海洋研究開発機構（以下JAMSTEC）の方々による「JAMSTEC 海のお話会」が開催され、沢山のお客様に楽しんでいただきました。



八戸海上保安部の方々による「3D地図 海底散歩体験」の様子。



「JAMSTEC 海のお話会」では、JAMSTEC 広報課 課長 満澤巨彦 様 と 広報課 事務主任 田村貴正 様がお話をしてくださいました。



たんけんクラブ会員からは次々と積極的な質問がでて、満澤様も回答に大忙し。

4. 最後に

今回、大勢の方々にお集り頂き、4周年記念式典が盛会のうちに終了することができましたことに、心より御礼申し上げます。

そして、来年の春には「ちきゅう」が八戸に来て、八戸沖での掘削調査が始まります。調査が大成功を収めるよう、心から応援したいと思います。

最後になりましたが、今回ご出席を賜ったご来賓の皆様と講師の皆様、そして、式典開催に際して共催の八戸海上保安部様、ご協力頂いた独立行政法人海洋研究開発機構様と海上保安協会八戸支部様に、重ねて御礼申し上げます。

今後も八戸市水産科学館マリエント、並びに『はちのへ「ちきゅう」情報館』をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

八戸市水産科学館マリエント

わた なべ とおる
渡 邊 徹

マリエント「ちきゅう」たんけんクラブ



へいせい ねんど がつきかく
平成23年度1月企画

かいよう ゆめ さくせいかい
「ハガキにかこう海洋の夢コンテスト ハガキ作成会」

へいせい ねん がつ かつどうご ほうこく
平成24年1月のマリエント「ちきゅう」たんけんクラブ活動をご報告します。

- それぞれの“海洋の夢”をハガキに表現することにより、海洋への“夢”や“憧れ”を強め、同時に、子ども達の想像力や感性を育む。
- 講師の指導のもとで絵を描き、絵画技術や表現方法について学ぶ。
- ご父兄も含めた参加者全員が協力して行事(餅つき)を行い、その姿から、クラブ会員に“協調性”や“皆で力を合わせて物事に取り組むことのすばらしさ”を学んでもらう。

この3つの趣旨をもとに、1月8日(日)、マリエント「ちきゅう」たんけんクラブ平成23年度1月企画「ハガキにかこう海洋の夢コンテスト ハガキ作成会」を開催しました。

<日程>

1. 絵画講習、応募ハガキ作成 【講師：八戸チャーチル会 会長 平川 則昭 氏】
2. 親子餅つき大会 (交流会)



1. 絵画講習、応募ハガキ作成

今回は、今や、たんけんクラブの恒例企画となった「ハガキにかこう海洋の夢コンテスト ハガキ作成会」です。

「ハガキにかこう海洋の夢コンテスト」とは、独立行政法人海洋研究開発機構（以下JAMSTEC）が行っている、「海洋」への将来の“夢”や“アイデア”を描く絵画コンクールです。



講師は勿論、八戸チャータール会会長の平川則昭先生。そして、たんけんクラブ副隊長の高橋晃先生もサポートに駆けつけてくださいました。

開会式を終え、いよいよ絵画講習の開始です。平川先生の熱心なご指導を頂きながら、クラブ会員それぞれの海洋の夢、アイデアをハガキいっぱいに表現しました。



出来上がった作品は、マリエントが取りまとめをしてJAMSTECへ応募します。結果発表は3月です。みんな、入賞目指して、頑張ろう！！

2. 親子餅つき大会（交流会）

ハガキ作成後は、今年行われる予定の地球深部探査船「ちきゅう」による八戸沖掘削調査の成功祈願とクラブの交流を図る目的で、“親子餅つき大会”を行いました。

餅つきは“皆で協力して作ろう！！”のコンセプトのもと、ご父兄の皆様積極的に参加してもらい、“餅つきのご指導”にもあたって頂きました。

なお、杵や臼などの餅つきに使用する道具は、八戸市南郷区の“山の楽校”からお借りました。



とても重い杵を精一杯持ち上げて、一所懸命餅をつきました。



失敗しそうになった餅は、力持ちのお父さんがフォロー。かっこよかった！！



高橋先生も大忙し！！



自分でついた“つきたての餅”は最高！！



なんと、最後は“餅の取り合い”になるほど盛り上がり！！

3. 最後に・・・

「ハガキにかこう海洋の夢コンテスト ハガキ作成会」は今回で3回目となりましたが、子ども達の自由でのびのびとした発想、そして、継続して参加して下さっているクラブ会員については、回を重ねるとの絵の上達ぶりに、あらためて関心をさせられました。たんけんクラブ活動を通して、クラブ会員それぞれが思い描く“海洋の夢”を後押し、更に膨らませていくことができればと思います。

また、「親子餅つき大会」では、ご父兄の皆様にも多大な協力とご指導を賜り、大変、有意義な会となりました。ご父兄の皆様、本当にお疲れ様でした。心から感謝を申し上げます。

最後となりましたが、今回の企画でご指導を賜りました八戸チャータール会 会長 平川則昭先生とたんけんクラブ副隊長 高橋晃先生、更に、餅つきの道具等を借して頂いた八戸市青葉湖展望交流施設 山の楽校様、そして、ご父兄の皆様にも、あらためて深く御礼を申し上げます。

ありがとうございました。

はちのへしすいさんがくかん
八戸市水産科学館マリエント
わた なべ とおる
渡 邊 徹



マリエント「ちきゅう」たんけんクラブ

平成23年度2月企画
「航海と星座の大研究」

平成24年2月のマリエント「ちきゅう」たんけんクラブ活動をご報告します。

○星や宇宙について学ぶと同時に、航海と星座の歴史的な関わりについても触れることにより、人間の暮らしと天体の関わりについて理解を深める。

○今年5月、日本においては25年ぶりに見ることのできる「金環日食」に向け、日食を見るための「太陽メガネ」の作成を行う。

○表彰式とお疲れ様会を通して、23年度の活動を振り返るとともに、クラブ会員及び保護者の方々の交流を図る。

この3つの趣旨をもとに、2月5日(日)、マリエント「ちきゅう」たんけんクラブ 平成23年度2月企画「航海と星座の大研究」を開催しました。

<日程>

1. 航海と星座の大研究
2. 太陽メガネの工作
3. 23年度 活動表彰式
4. 23年度 お疲れ様会

【講師】八戸市総合教育センター 所長 井上 貫之 様



1. 航海と星座の大研究

今回は、講師に八戸市総合教育センター 所長 井上 貫之 様をお招きし、昔の航海における星の役割や、宇宙のことにについて勉強する企画です。



八戸市総合教育センター 所長 井上 貫之 様



会場は満席となりました。

講話では、磁気コンパス(方位磁石)もない昔の時代は、星の位置を頼りに航海が行われていたことや“星座”は大昔の中東で、夜間、オオカミから羊を守る番をしていた人達が、星を見て神話を話したことがはじまりであること等、大変興味深いお話を頂きました。



そして圧巻だったのは、宇宙の広さのお話。講話の会場が今回は3階ウミネコシアターであったため、真っ暗にしたシアター内の特大のスクリーンで、地球から宇宙の果てまで移動していくお話は、まるで自分達が宇宙空間を遊泳しているような気分、参加したクラブ会員たちはとても感動しているようでした。

2. 太陽メガネの工作

シアターでの講話終了後は、5階展望ホールに移動し、今年5月に日本においては25年ぶりに見ることのできる「金環日食」に向け、日食を見るための「太陽メガネ」の工作を行いました。なお、金環日食とは、太陽と月が重なり、太陽光がリング状に見える日食のことです。



もくもくと作業に取り組んでいます。

カッターを使う危険な作業もあるので、保護者の方々のご協力も賜り、怪我の無いように注意をしながら工作を行いました。



太陽メガネを使うと、どんな風に見えるかな？



井上先生の話真剣に聞いているクラブ会員。

この太陽メガネは、目の部分に光や有害なものを通さない特殊な素材を貼っているため直接太陽を見ても眩しくありません。

太陽メガネを完成させたクラブ会員は、早速、太陽がどのように見えるかを試していました。

3. 23年度活動 表彰式

太陽メガネ作成後、今年度最後の企画ということで、表彰式を行いました。今回表彰されるのは3名です。1人目は、久保雅史くん。今年度の活動で、一番多く企画に参加してくれたため、「いちばん出席大賞」を授賞させていただきました。おめでとうございます。来年度もたくさん参加してくださいね。



2人目は、於本拓也くん。企画ごとに提出してもらっているレポートがとても素晴らしいため、「レポート大賞」を授賞させていただきました。おめでとうございます。これからも素晴らしいレポートを書いて下さいね。



3人目は、二子雄太くん。今年度の企画で着衣泳をする際、泳ぐのがとても苦手だったにも関わらず、一所懸命に頑張ってくれたため、「がんばりやさん大賞」を授賞させていただきました。おめでとうございます。「まだ少し泳ぐのが苦手だけど、頑張ります」と言ってくれた雄太くん、会場から大きな拍手が送られました。



そして、最後にマリエント館長の吉井仁美より挨拶があり、平成23年度マリエント「ちきゅう」たんけんクラブの企画が終了となりました。



4. 23年度 お疲れ様会

表彰式終了後は、23年度 お疲れ様会といたしまして、せんべい汁のお振舞いをしました。せんべいはクラブ会員一人一人に、自分で割って入れてもらいました。大きめに割る子、一口サイズに割る子、二枚一組で割る子、一枚一枚丁寧に割る子など様々で、クラブ会員の性格が表われていたように思いました。



自分で入れたせんべい汁ということもあって、クラブ会員はとてもおいしそうに食べていました。なかには何杯もおかわりするクラブ会員やせんべいだけ食べたいというクラブ会員もいました。



さいご
最後となりましたが、今回お世話になりました。はちのへしそごうきょういく
八戸市総合教育センター 所長 井上貫之 様、お忙しい中、
ほんとう
本当にありがとうございました。改めて御礼申し上げます。

かいいん ていしゆつ
クラブ会員が提出してくれたレポートでは、今回の企画に参加して「今度、図書館に行つて星のことを調べたい」、
じぶん うちゆう
「自分でも宇宙のことを調べてみたい」、「星のことにすごく興味をもつたので、星の観察を始めたい」などという
いけん
意見があり、このような積極的な意見がいくつも出てきたことを、とても嬉しく感じます。

こんかい こんねんごさいご きかく
今回は今年度最後の企画となりましたが、マリエント「ちきゆう」たんけんクラブ 名誉隊長の坂本 美洋 様を
はじめ、副隊長の高橋 晃 様、そしてクラブ会員・保護者の皆様に支えられ、無事、最後の企画を迎えることが
できました。1年間、本当にありがとうございました。

らいねんご かつどう いっそうじゅうじつ わたしたち がんばる まい おも こんご
来年度は、活動がより一層充実したものになるよう、私達スタッフも頑張つて参りたいと思いますので、今後も
“マリエント「ちきゆう」たんけんクラブ”をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

はちのへしすいさんか がくかん
八戸市水産科学館マリエント
わたなべ とおる
渡邊 徹
うえはら さやか
上原 沙也香



と溶かしたアルギン酸ナトリウムを塩化カルシウム溶液に入れると、すぐに固まって「アルギン酸ビーズ」が出来ました！！



アルギン酸ビーズを、あらかじめ用意してきたマスコットと一緒にビンに入れ、オリジナルの「アルギン酸スノードーム」が完成！！



まつぶせんせいは「自分で使った机をきれいにしてください」と言って、トイレットペーパーをドライヤーで吹き飛ばして参加者に配布。突然のパフォーマンスに、会場は大盛り上がり！！



さいご 参加者一人一人に、まつぶせんせい ちやくせつ 最後には、参加者一人一人に、松延先生から直接、嬉しい修了証書が授与されました。



まつぶせんせい 記念撮影！！

2. (午後の部) 『科学で事件を解明!! 科学捜査班』

午後の部では、小学校高学年を対象に、『科学で事件を解明!! 科学捜査班』が開催されました。

この実験は、ネズミの誘拐事件が発生し、3匹の容疑者(ネコ)に対し、現場に残された「脅迫文」、「ハンカチ」、「指紋」の3つの手がかりをもとに、「科学の力を使って犯人を探し出す」という実験です。

参加者は、「クロマトグラフィー」という方法で脅迫文に使われたインクを分析し、書いたペンのメーカーを調べたり、「ポーケンステイン」という繊維鑑別用の染料を使って、ハンカチの繊維を調べました。

また、「アルミ粉末を使った指紋の検出」も体験し、それぞれ3つの実験結果をもとに、3匹の容疑者から真の誘拐犯人を特定しました。



午後の部は、白衣を着用して実験に臨みました。
皆さん、気分はすっかり“博士”です。



「クロマトグラフィー」を使って、インクに含まれる色素成分を分離してみました。



「ポーケンステイン」でハンカチの繊維を調べる実験。犯人のハンカチは何色に変わったかな？



アルミ粉末を使って自分やお父さんお母さんの指紋を検出してみました。検出が終わったあと、「犯人はネコなので指紋が無く、調べる必要が無かった・・・」という松延先生の「オチ」に、会場は大爆笑！！

3. 最後に

今回、クラブ会員は、松延先生の科学を解り易く、そして、おもしろ楽しく説明して下さる内容に、心を惹き付けられているようでした。

また、参加者の中でも、たんけんクラブ会員の物怖じせず堂々と発言する姿勢や、積極的に質問をする姿に改めて感心させられ、同時に、とても頼もしさを感じました。

最後になりましたが、参加して下さったたんけんクラブ会員及び保護者の皆様、講師をして下さった松延康先生、そして、今回、このような貴重な企画にお声掛け下さいました青森県立三沢航空科学館の皆様、心から感謝を申し上げます。

ありがとうございました。